

RUBeC 演習を履修し終えて

吉田 貴

Takashi YOSHIDA

機械システム工学専攻修士課程 1年

1. はじめに

2016年8月13日から29日の約2週間、アメリカ合衆国カリフォルニア州にある Ryukoku University Berkeley Center (RUBeC) で、研究論文を英語で書き、さらに英語でのプレゼンテーション能力を身につけるという語学学習に参加しました。その期間ホームステイをし、またアメリカの企業視察および大学訪問をするというとても貴重な時間を過ごしました。

2. 授業内容

2.1 事前学習

渡航前に、研究の要旨とパワーポイントを英語で作成しました。修士から研究テーマを変更したので、研究背景などをよく理解した上で書いたため完成するのに時間がかかりましたが、良い機会であったと思います。また2週間ホームステイをしますので、日常会話や買い物時の会話なども勉強し渡航に備えました。

2.2 授業内容

授業では、午前にテクニカルライティング、午後にスピーキングを行いました。もちろん授業はすべて英語で行われました。自分の英語能力はとても乏しかったのですが、おおよそ聞き取れていたのではないかと思います。ネイティブの先生方が理解しやすいような単語で聞き取りやすく会話して下さったことありますが、中学校時代に発音記号を嫌になる程練習した甲斐が思わぬところで発揮していました。

授業内容としては、テクニカルライティングでは授業中に英文法や構文の基礎的なことを習い、事前

に作成した研究論文を添削・修正していきます。文章を構成するときには論理的に組み立てなければいけないことを学び、実際に与えられたテーマについて文章を作る作業を行いました。受動態にするか能動態にするのかという点などの日本人が文章を作るときの物事の捉え方との違いをたくさん知ることができました。その日に授業で習ったことを使って事前に作成した論文を修正し、英語の先生にとっても丁寧に添削をしていただきました。論文には技術英語が出てきますが RUBeC 演習に同伴していただいている先生方に補助していただき修正して行きました。最終日には自分の研究をわかりやすく簡潔に相手に伝える練習をしました。はじめはうまく相手に伝えることができませんでしたが、繰り返すごとに伝えたいことが頭の中で構築していき、うまく相手に伝えることができるようになりました。

午後のスピーキングではプレゼンテーションにおいてとても重要なことを学び、一週目に自己紹介や発音練習、相手に伝えるための練習をし、最終日に自分の研究内容をクラスの皆に発表しました。海外で好まれるパワーポイントの作り方では、スライドには伝えたいキーワード以外はあまり記載せず口頭で発表することなど見やすさを重視することを学びました。また、身振り手振り相手の目を見て話すことやジェスチャーを使うこと、アクセントや構文の区切り方、情熱などの発表に重要なことや相手に伝えたいという意味などの会話するうえで日本人が苦手な部分の練習をたくさんすることで、発表することについての苦手意識をなくすことができました。また、クラスの皆の専門分野の研究内容を知ることでもできたのでとても有意義でした。

3. 企業・大学訪問

3.1 Thermal Technology LLC

1週目の水曜日に企業視察として、Thermal Technology 社を訪問しました。この企業はおもに焼結や焼付けなどを行うための装置を設計から製造まで行う企業で、この企業の製品の特徴は放電プラズマ

焼結法を利用していることです。また、この企業では40人程度の社員が働いているそうです。

はじめに、企業の取り扱っている機器について、またその機器の用途などを聞きました。次に、依頼先の使用条件に合う製品の設計を行っている現場を見学し、その後、焼結炉のテストを見学させていただきました。この焼結炉をテストする実験室は大学の研究にも使われており、放電プラズマ焼結という分野で、世界でも数少ない会社の中で実際に開発・製造している現場を見学できたことは、貴重な体験でした。

3.2 University of California, Davis

2週目の水曜日には農学部や工学部で有名な UC Davis へ訪問しました。UC Davis の歴史や学部などの詳細、現地の学生の研究内容、大学の環境問題への取り組みなどの内容の講演を聞き、日本の大学の授業内容や大学での過ごし方などを英語で意見交換をしました。UC Davis にはたくさんの留学生在が研究をしに来ており、そのほとんどが返還不要の奨学金を受けているようで、気候も良く留学しやすい印象を受けました。大学の敷地はとても広く、見渡す限りの畑、家畜を飼育する施設、ワイン農場などがあり日本ではなかなか見ることができない光景でした。昼食に UC Davis 内の食堂を利用しましたが、農業が有名なためか、米や、ハンバーガーのパティーが大豆で作られていたり、カロリーや栄養素などが書いてあり、留学生でも飽きないようなメニューでした。

昼食後には、地震、波、風や高潮などの影響を受けた土壌構造システムの性能に関する研究を行っている Center for Geotechnical Modeling に行き、巨大な遠心分離器の構造やそれを動かすシステムなどの見学をしました。遠心分離器のサイズは半径9メートルでありとても大きい印象を受けました。

4. ホームステイ

2週間の間、学生はそれぞれホームステイをし

ました。私がお世話になったホームファミリーは5ヶ国語を話せる方で、他言語を話すことの大変さをとて理解されており、英語がおぼつかない私たちにゆっくり簡単な英語で会話をして下さり、こちらが伝えたいことが伝わらるときも嫌な顔をせずに何回も耳を傾けてくださいました。そのおかげで、英語で相手に伝えたい、会話したいという思いがとても大きくなり、積極的に会話をする自信に繋がりました。

また、朝食や夕食はファミリーがベジタリアンで料理好きということもあって、日本では食べる機会がないようなメニューを毎日違うメニューでいただきました。

5. おわりに

RUBeC 演習を履修し終えて、英語が話せるようになったかというところではなく、上達はしたがまだまだかなというレベルです。しかし、リスニング能力は確実に上がったという手応えはあります。今回、ホームステイや授業、休日の自由時間での観光などで得たことは、自分の考えなどが相手に伝わなければ、会話は始まらないということです。逆に、相手に伝えよう、伝えたいという意思があれば英文法をそこまで気にしなくても会話することができ、案外なんとかなるということがわかりました。

ただ、やはり正しく英語を理解し学習するということは、相手に正確に物事を伝えるとても重要なことであるということを身に沁みて感じました。

はじめは身体的にも精神的にも緊張と心配でいっぱいでしたが、とても貴重で有意義な経験ができたのではなかとと思います。また、失敗を考えずに何事もチャレンジしてみるということがとても重要な期間でした。

もし RUBeC 演習を履修しようか悩んでいる人がいらっしやれば、是非チャレンジすることをお勧めします。